

令和 4年度 綾瀬市立土棚小学校 学校関係者評価報告書

綾瀬市教育委員会の基本方針	(学校教育分野) 人を思いやり 社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子ども	
学校教育目標	よく考える子になろう ねばりづよい子になろう じょうぶな子になろう 思いやりのある子になろう	
学校経営方針 (グランドデザイン)	 学校経営方針 教育活動の理念に基いた学習を通して、身に付けたい資質能力を育成する。 自ら学ぶ力・主体的な学び・協働的な学び・創造的な学びを育てる。 育でたい資質・能力 基礎・基本を大切に、一つ上を目指す 丁寧に取り組む力 とことん考える力 一歩踏み出す力 本年度の重点目標：自分の考えを持ち、前向きに取り組む子 学校経営方針 A 教育課程の充実 【重点目標】 「学びが深まるようになる」という観点から、基礎・基本の定着と、学力の向上を図る。また、それぞれの児童の個性や能力に応じた学習の機会を確保する。 B 研究・研鑽 【重点目標】 「学びが深まるようになる」という観点から、基礎・基本の定着と、学力の向上を図る。また、それぞれの児童の個性や能力に応じた学習の機会を確保する。 C 健康・安全・支援教育 【重点目標】 健康・安全に関する指導の充実を図る。また、支援教育の充実を図る。 D 児童指導・体育・芸術 【重点目標】 一人ひとりの児童の個性や能力に応じた学習の機会を確保する。また、児童の個性や能力に応じた学習の機会を確保する。	
今年度の重点目標	自分の考えを持ち、前向きに取り組む子	
取組分野	評価の観点	学校の自己評価と改善策
1 学習指導	学校は、「よく考える子」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。	土棚小学校では、「学校として育成を目指す資質・能力」として目指す児童像を【丁寧に取り組む力】、【とことん考える力】、【一歩踏み出す力】と設定しています。全教育活動を通して、これらの力の育成に努めています。アンケートでは、保護者・教職員とも概ね肯定的な評価であり、約8割の児童も意欲を持って学習に取り組んでいます。約2割の児童が学習に対し前向きに取り組めない理由を抱えていることが課題です。校内研究を中心とした授業改善では、基礎・基本の定着を図ると共に児童の学習意欲を高める工夫に一層力を入れていきます。また、多角的な見方、考え方で課題を捉え、既習事項や生活経験などと結びつけてじっくり考えられるような「生きた学び」を目標に、当たり前のこと、基礎的・基本的なことを第一に、積極的に考えを伝えたり、失敗を恐れず挑戦したりする態度を育成しながら深い学びの実現を目指していきます。家庭学習については、さらに充実が図られるように学習の仕方や内容をわかりやすく提示していきます。
2 教育課程	児童は、学校行事に積極的に参加している。	学校行事に意欲的に取り組んでいる様子がわかります。今後も、児童が集団生活の中で自らの責任を自覚し、自らめあてを持って取り組むことで達成感が味わえ生き生きと活躍できるように、学校行事や行事への取り組み方を工夫していきます。また、それぞれの行事を通して「何を学んだのか」という振り返りの時間を大切に、行事を通して身に付いたことは何かを明確にすると共に、児童自身がそれらを生活やこれからの人生に生かしていけるようにしていきます。
3 児童・生徒指導	学校は、「思いやりのある子」を育てるために工夫や改善に取り組んでいる。	多くの児童が、学習や掃除の時に協力し、学校生活で相手の気持ちを考えていると答えています。今後も思いやりのある行動を認めたり褒めたりしながら、全ての児童のよりよい変容を促すことで相互の温かな人間関係を育み、自分の周囲にある環境や物に対しても丁寧に接していく気持ちを涵養するなど心の教育に一層取り組んでいきます。
4 児童・生徒指導	児童は、満足して学校の生活を送っている。	児童の9割が「学校が楽しい」と回答し、学級や学校で友だちと楽しく生活していると思われれます。その一方で、1割の児童が悩みや不安を抱えているという現実が気になります。設問3の児童の回答とも関連があると考えます。今後も支援体制の更なる充実を図りながら、児童を取り巻く人間関係に職員全体で注視するとともに、一人ひとりの児童の思いが汲み取れるように見守っていきます。そして全ての児童にとって心から「楽しい!」と思えるような学校を目指します。
5 児童・生徒指導	学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。	学校全体で定期的に取り組んでいるスクールアンケートやいじめ防止委員会、児童指導グループの取組等、学校が行っている指導、取組に関する周知が不十分であることが伺われます。コロナ禍で保護者が気軽に来校する機会が減少しているからこそ、学校だけでなく中心に引き続きいじめは絶対に許さないという強い姿勢を伝えていく必要があります。また保護者が来校できるような行事や取組も見直し、学校の取組を知ってもらう機会を増やす必要があります。児童や保護者が安心して話ができる環境づくりや、不安や悩みに応じるスクールカウンセラーの存在、常に教育相談に応じること等を重ねて周知していきます。また児童へは、引き続きスクールアンケートを実施したり、日常の様子をきめ細かく見たりしながら、いじめの早期発見・再発防止のための指導を徹底していきます。また、道徳の時間等で「思いやり」を育むとともに、全ての児童が活躍できる機会を設けるなど、いじめの未然防止に努め、一人ひとりが大切にされる学校・学級を目指していきます。
6 保健管理	学校は、心と体の健康な子を育てるために工夫や改善に取り組んでいる。	ふれあい活動は児童の多くが楽しみにしている活動で、アンケートからもその様子がうかがえます。異学年集団の中で、教室とは少し違う雰囲気の中、様々な遊びを通して活発に交流する姿はとほほえましいものです。今後もこの活動だけでなく、毎日の児童の健康状態の把握を基本とし、体力の向上を目指すとともに、スクールカウンセラーとの連携等を行いながら児童の心と体の健康を目指していきます。
7 安全管理、教育環境整備	学校は、児童の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。	教職員が意識をもって、児童の安全のための指導や施設等の点検・整備にしっかりと取り組んでいます。しかし、児童を取り巻く社会環境の変化や近年の風雨災害の甚大化、南海トラフ地震等の震災に対する備え等、学校として取り組むべきことは限りなくあると考え、現状の対策に満足することなく、あらゆる可能性を考慮した「火災や地震を想定した避難訓練」「不審者侵入時の避難訓練」「緊急一斉下校練習」「防災引き渡し訓練」「あんしん教室」等を実施して、危機管理意識を高めていきます。また、ボランティアやPTAの方々の協力を得ながら、登下校の見守りなど、児童の安全対策について取り組んでいきます。
8 支援教育	学校は、一人ひとりの児童に応じた支援の工夫をしている。	教職員の全員が一人ひとりの児童に応じた支援の工夫を具体的に実践しています。今後も、一人ひとりの児童の困り感や保護者の教育的ニーズに寄り添いながら個に応じた支援の充実に向けていきます。また、担任が一人で抱え込むことなくケース会議を開くなどチームとしての対応を基本とし、また他機関とも連携しながらより効果的な支援を目指し取り組んでいきます。

9 組織運営	校長を中心とした運営組織になっている。	学校運営について総括教諭をリーダーとした各グループで計画・立案されたものが、企画会議、職員会議を経て実践され、振り返りをもとに新たな課題を見出し、改善に向けて新たな計画を立てるというサイクルを徹底し、よりよい学校となるように取り組んでいます。昨年度より各グループで戦略マップを作成し、担当している行事や取組をねらいに照らして見つめ直しました。引き続き機能向上を目指し、組織がよりよく機能するための手立てを検討するとともに、グループ間の連携を深めて学校運営上の課題解決に向け、全職員が一丸となって取り組んでいます。
10 教職員の研修	学校は、教職員の力量を高めるための取組に力を入れている。	全ての教職員が、丁寧に学び、とことん考え、共に学び合う力の育成に力を入れていきます。そのための校内研究体制について教職員の意思は一致していると考えます。変化していく社会から求められる力に対応し、また変わらず求められる基礎的・基本的な力も確実に身に付けられるようあらゆる教科学習において今までの研究を更に深化させていくために、今後も引き続き全職員が協力して指導力向上を目指し、質の高い授業改善に取り組んでいきます。
11 教育目標・学校評価	学校は、児童の実態を把握し、よりよい児童の成長のための工夫をしている。	約8割が肯定的な評価になっていますが、そうでない評価も約2割あります。今後も更に細やかな気を配り、より一層児童の実態や課題の把握に心掛け、共通理解のもと教職員一丸となって、児童が有意義な学校生活を送れるようきめ細かい指導にあたっていきます。また、学校・家庭・地域の連携もより密にとれるように見直し、児童のよりよい成長につながるよう努めます。
12 情報提供、保護者・地域住民との連携	学校は、保護者等に適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。	新型コロナウイルス感染症の影響がまだまだ続くと思われる中、学校と保護者、地域との連携の推進、また学校からの情報発信の工夫に努めています。今後も各種たよりや授業参観・懇談会、学校、学年行事を通して児童の学習や活動の様子を伝えていきます。また、今年度より立ち上がったコミュニティ・スクールの制度も活用しながら、保護者や地域の方に学校をもっと知ってもらい、また協働しながらより豊かな教育活動が行えるよう努力していきます。
【学校運営協議会からの意見及び改善策】 ○コロナ禍になり、保護者や地域の方が学校に来る機会が減った。学校で何をしているか子どもに聞くようにしているがよくわからない部分もある。今後5類扱いに変更になり変わっていきけると良い。 ○音楽集会での児童の様子は素晴らしかった。また、参観している児童の聞く姿勢も素晴らしい。保護者も一緒に何かできると良いのではないかな。自治会も協力したい。 ○ふれあい活動（全校縦割り班による活動）等で高学年の児童が下学年の児童に優しく声かけをする場面が土棚小にはあるが、一緒になって喜んだり、子ども同士で褒め合ったり、「褒める」ということを意図的に行う場面をこれからも大切にすると良い。 ○全般的に良い評価になり安心している。 ○学校全体として素晴らしい教育活動をしている。学校運営協議会委員としてこれからも協力していくが、手続きが簡素化できないか。もっと気軽に「お願い」「いいよ」とシンプルに付き合えると良いのではないかな。		